

# ミスミグループ

## 2020年3月期 上期決算報告

2019年10月29日  
代表取締役社長CEO  
大野龍隆

### 19年度上期決算の概要

為替レート (対円)	FY18上期 実績	FY19上期 実績
USドル	110.1円	109.0円
ユーロ	129.9円	121.4円
人民元	16.7円	15.8円

## 目次

1. 19年度上期決算の概要	2
2. 19年度通期連結業績見通し	11

### 19年度市況の当初見立てとの相違

#### 当初の市況の見立て

米中貿易摩擦の長期化懸念により中国経済は不透明 --- **悪化**  
 スマホに代わりFA業界をけん引する産業は不在 ---- **的中**  
 短期的には世界的な景気減速への懸念が強まる ----- **的中**

#### 製造業にとって

見立て以上に市場は悪化、**リーマンショック以上のダメージ**

#### 当社は

**長期的：モデル革新に向けた投資を継続**  
**短期的：「量」減に応じ投資時期見直し＋収益構造改善**

## 19年度上期 決算概要

中国の景気低迷に加え日本・欧州の需要減等により計画未達成  
成長投資を厳選しコスト低減を徹底するも売上減の影響大

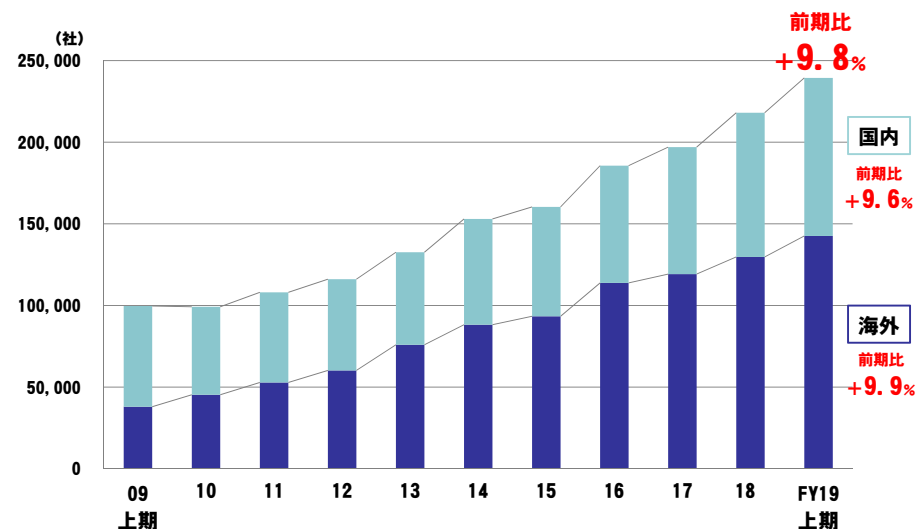
項目	FY18上期	FY19上期			
		実績	計画	実績	増減率
	対前年				対計画
売上高	166,668	168,100	157,133	▲5.7%	▲6.5%
営業利益 (のれん等償却前)*	16,202	15,100	12,040	▲25.7%	▲20.3%
利益率	9.7%	9.0%	7.7%	▲2.1pt	▲1.3pt
営業利益	15,896	14,800	11,737	▲26.2%	▲20.7%
利益率	9.5%	8.8%	7.5%	▲2.1pt	▲1.3pt
経常利益	15,970	14,700	11,566	▲27.6%	▲21.3%
当期利益	11,573	10,900	8,510	▲26.5%	▲21.9%

※1. 北米DL社の買収に伴うのれん及びその他無形固定資産の償却前営業利益  
2. のれん償却は2017年10月で終了

4

## 19年度上期 顧客数推移

不況下でもグローバルで顧客拡大に向けた取り組みを継続  
着実に強固な顧客基盤を構築し景気回復時に高成長を狙う



5

## 19年度上期 事業別売上高

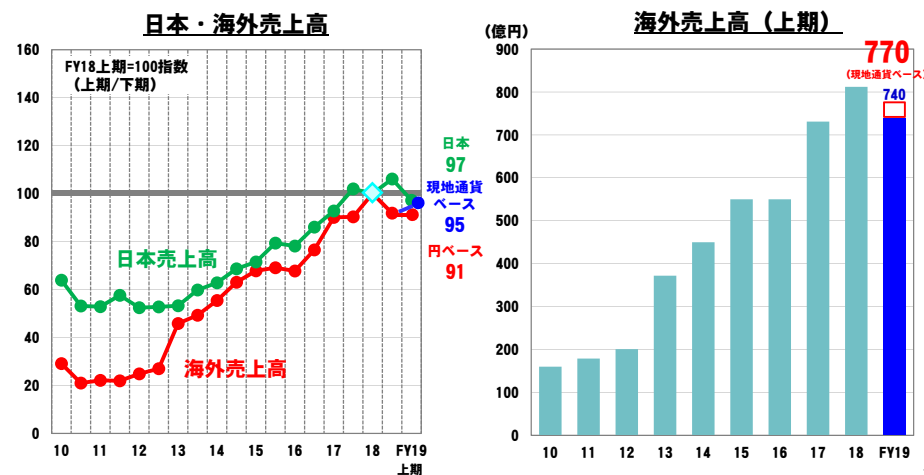
FA 昨年の大口受注除き▲6%、設備投資需要低迷が継続  
金型部品 アジアの成長は継続するも現通ベース微減収  
VONA 欧・米・亜では成長を確保したものの中国需要減が影響

項目	FY18上期	FY19上期		
		実績	実績	対前年増減率
	円ベース			現地通貨ベース
合計	166,668	157,133	▲5.7%	▲3.9%
FA事業	56,068	49,836	▲11.1%	▲9.2%
金型部品事業	38,494	37,257	▲3.2%	▲0.8%
VONA事業	72,105	70,038	▲2.9%	▲1.4%

6

## 19年度上期 日本・海外売上高

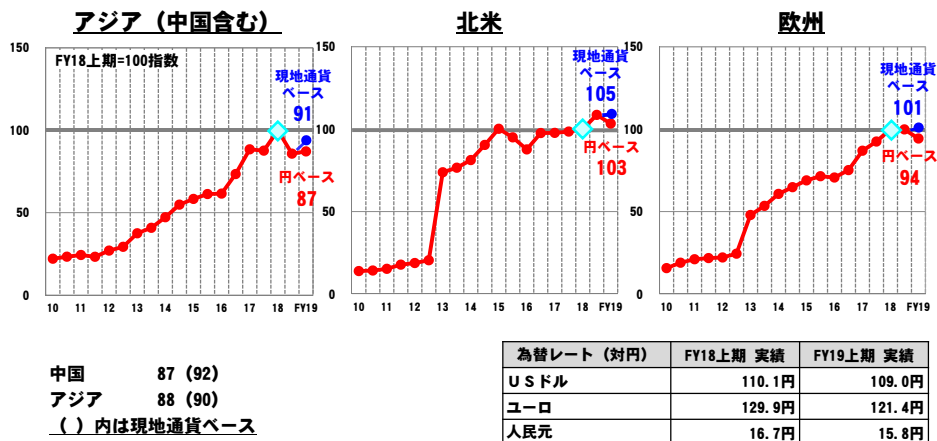
日本 対中輸出減等により設備投資需要が減速  
海外 中・韓の低迷が継続  
海外売上高は現通ベースで5%減、海外比率は47%



7

## 19年度上期 地域別売上高 (現地通貨ベース)

アジア 中・韓は電機等低迷、東南亜は确实短納期強化で顧客増  
 北米 景況減速するもFA・VONA品揃強化で新規需要獲得  
 欧州 自動車等は市況悪化もVONA拡販で現通ベース微増収



8

## 19年度上期 事業別営業利益

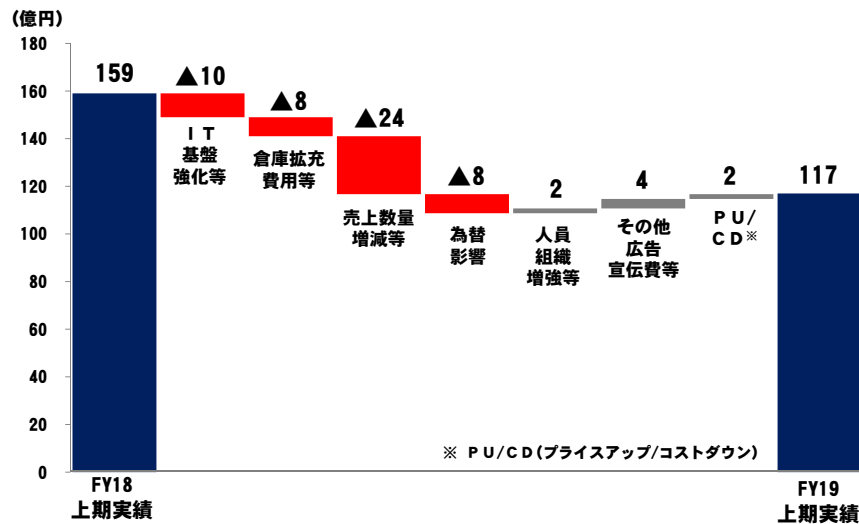
FA・金型 成長投資を補うコスト低減断行も売上減が影響  
 VONA 成長投資・売上減を収益改善でカバーし利益率維持

項目	FY18上期		FY19上期			
	実績	利益率	実績		対前年増減率	
			利益率	円ベース	現地通貨ベース	
合計	15,896	9.5%	11,737	7.5%	▲26.2%	▲20.8%
FA事業	9,791	17.5%	6,242	12.5%	▲36.3%	▲32.9%
金型部品事業	3,231	8.4%	2,498	6.7%	▲22.7%	▲18.4%
のれん等償却前	3,537	9.2%	2,801	7.5%	▲20.8%	▲16.9%
VONA事業	3,117	4.3%	2,995	4.3%	▲3.9%	+8.6%
その他・調整額	▲243	-	-	-	-	-

9

## 19年度上期 営業利益増減分析 (前年比)

IT・物流の強化等モデル革新への成長投資は厳選し継続  
 採用抑制、広告費削減等に取り組むも売上数量減の影響が大



10

## 19年度通期連結業績見通し

為替レート (対円)	FY18 実績	FY19 下期計画	FY19 通期計画
USドル	110.7円	107.0円	108.1円
ユーロ	128.4円	118.0円	119.9円
人民元	16.5円	15.0円	15.4円

11

## 19年度 今後の見立て

米中貿易摩擦の長期化で世界的な景気減速懸念は払拭できず

5G、EV関連は一部で需要出始めるも成長けん引には尚早

景気の底打ち感はなく引き続き低調に推移すると想定

長期的：モデル革新に向けた投資を継続

短期的：「量」減に応じ投資時期見直し+収益構造改善

市場低迷の中でも自助努力で成長する強固な体質を構築

12

## 19年度通期 業績見通し(修正)

需要動向を踏まえて計画を修正、売上高は現通ベースで前年並  
成長投資を厳選継続しコスト低減も徹底、一方で減収の影響大

項目	FY18		FY19			
	実績	期初計画	修正計画	対前年		対期初計画
				円ベース	現地通貨ベース	
売上高	331,936	355,000	326,500	▲1.6%	+0.6%	▲8.0%
営業利益 (のれん等償却前) <sup>※</sup>	32,490	36,000	28,300	▲12.9%	▲5.7%	▲21.4%
利益率	9.8%	10.1%	8.7%	▲1.1pt	▲0.6pt	▲1.4pt
営業利益	31,874	35,400	27,700	▲13.1%	▲5.8%	▲21.8%
利益率	9.6%	10.0%	8.5%	▲1.1pt	▲0.6pt	▲1.5pt
経常利益	31,815	35,200	27,300	▲14.2%	-	▲22.4%
当期利益	24,034	25,900	20,100	▲16.4%	-	▲22.4%

※1. 北米DL社の買収に伴うのれん及びその他無形固定資産の償却前営業利益  
2. のれん償却は2017年10月で終了

13

## 19年度下期 業績見通し

売上高は自助努力による成長で前年対比微増収を見込む

成長投資の厳選とコスト低減の徹底で現通ベース増益を確保

百万円

項目	FY18下期		FY19下期			
	実績	期初計画	修正計画	対前年		対期初計画
				円ベース	現地通貨ベース	
売上高	165,268	186,900	169,367	+2.5%	+5.2%	▲9.4%
営業利益 (のれん等償却前) <sup>※</sup>	16,287	20,900	16,260	▲0.2%	+8.8%	▲22.2%
利益率	9.9%	11.2%	9.6%	▲0.3pt	+0.3pt	▲1.6pt
営業利益	15,977	20,600	15,963	▲0.1%	+9.1%	▲22.5%
利益率	9.7%	11.0%	9.4%	▲0.3pt	+0.3pt	▲1.6pt
経常利益	15,845	20,500	15,734	▲0.7%	-	▲23.2%
当期利益	12,460	15,000	11,590	▲7.0%	-	▲22.7%

※1. 北米DL社の買収に伴うのれん及びその他無形固定資産の償却前営業利益  
2. のれん償却は2017年10月で終了

14

## 19年度 事業別売上高見通し

F A 新商品投入や5G関連受注取り込みで下期は増収計画

金型部品 品揃え拡大等に取り組むも主要国で自動車関連が低迷

V O N A 東南亜の成長継続に加え国内新商品投入等で販売拡大

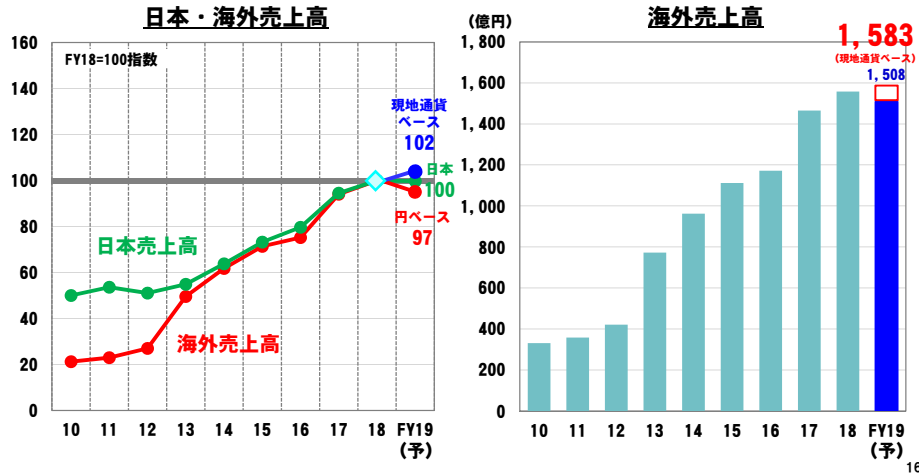
百万円

項目	FY18		FY19			
	実績	期初計画	修正計画	対前年		対期初計画
				円ベース	現地通貨ベース	
合計	331,936	355,000	326,500	▲1.6%	+0.6%	▲8.0%
F A 事業	109,230	113,033	104,403	▲4.4%	▲2.1%	▲7.6%
金型部品事業	76,443	79,089	74,434	▲2.6%	+0.5%	▲5.9%
V O N A 事業	146,262	162,879	147,663	+1.0%	+2.7%	▲9.3%

15

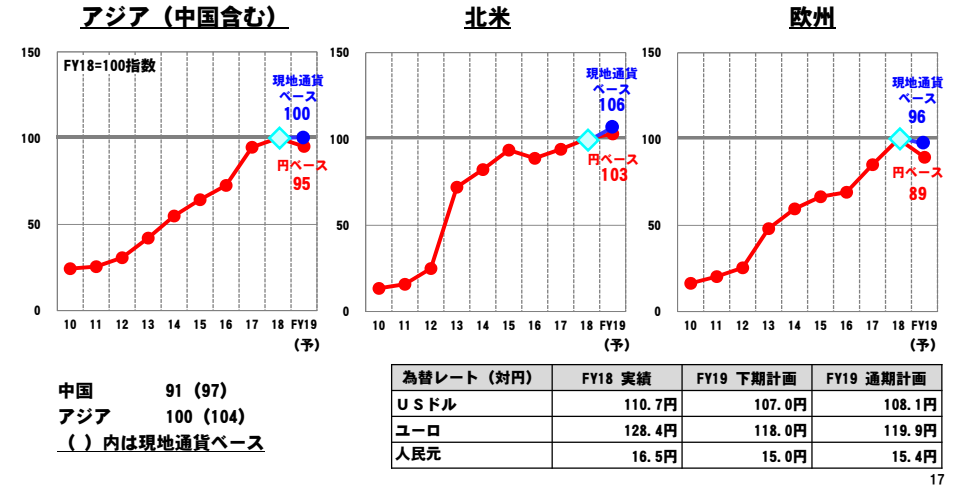
## 19年度 日本・海外売上高見通し

日本 F A新商品・5 G関連拡販とVONA品揃増で下期増収  
 海外 中・韓・欧は引き続き景気低迷想定も東南亜・米で成長継続  
 海外売上高は、現地通貨ベース2%増、海外比率46%



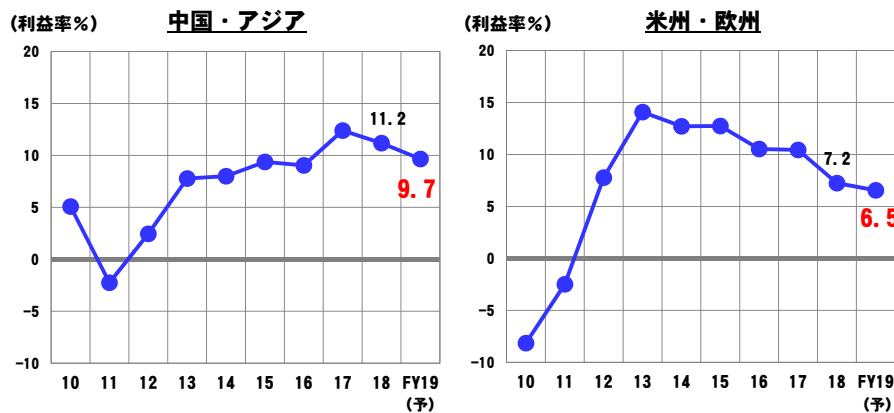
## 19年度 地域別売上高見通し (現地通貨ベース)

アジア 東南亜の販売拡大により現通ベース前年並みを確保  
 北米 F A・VONA品揃拡大とメキシコ開拓効果で成長継続  
 欧州 新規顧客開拓進むも自動車業界稼働減の影響が継続



## 19年度 所在地別営業利益見通し

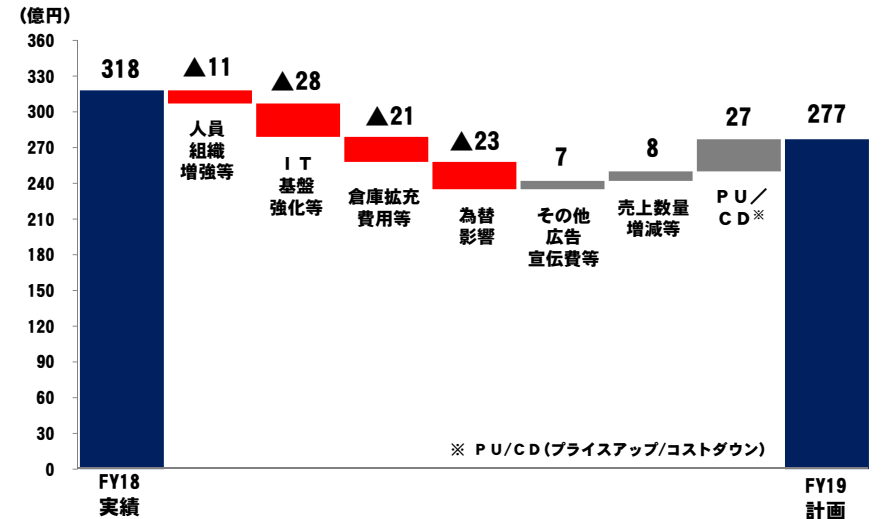
全地域で収益改善策に取り組むも中・亜・欧は売上減が影響  
 特に欧では為替影響を大きく受け利益率低下



※ 1. 所在地別営業利益に基づく  
 2. 12年度より米州・欧州合計と中国・アジア合計の2地域別で営業利益(率)を表記  
 3. 北米D L社の買収に伴うのれん及びその他無形固定資産の償却前営業利益を元に算定

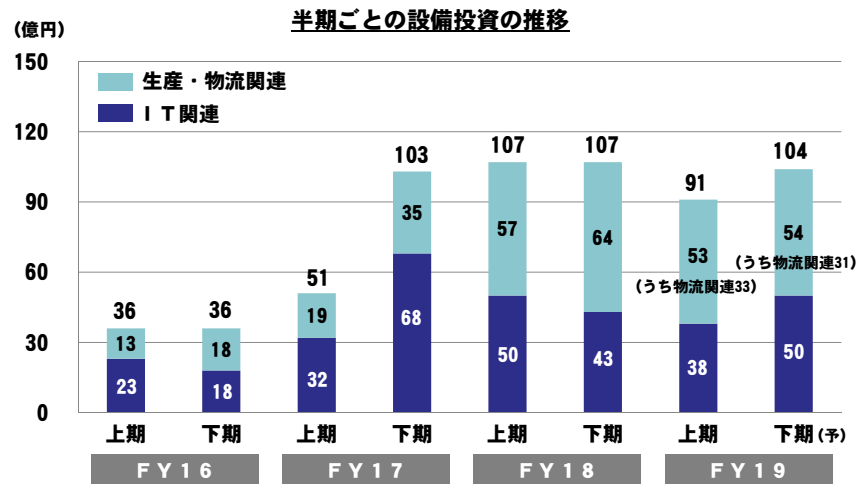
## 19年度 営業利益増減分析 (前年比)

競争優位性構築への投資はテーマを厳選しつつ下期も継続  
 下期の営業利益修正要因は売上減の影響のみ、収益性は維持



## 投資計画

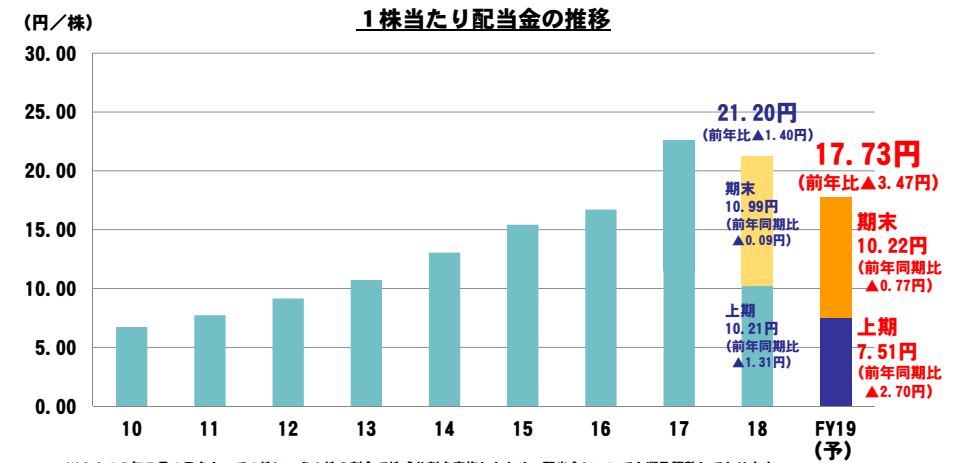
モデル革新に不可欠な成長への投資はテーマを厳選し継続「量」への対応となる増産投資は延伸しさらに抑制



20

## 株主還元

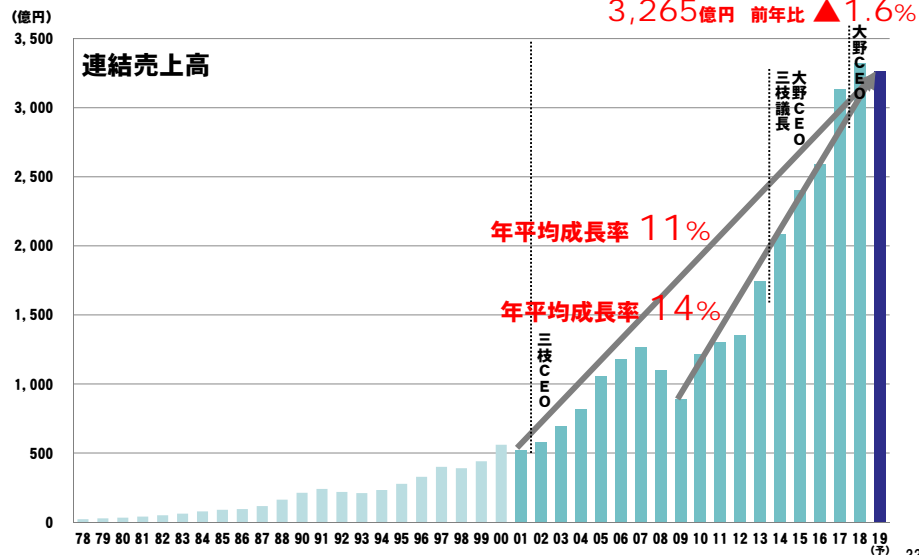
19年度上期配当は7.51円で前年同期比2.70円減  
年間配当は17.73円、前年比3.47円減を見込む



21

## まとめ

モデル革新への投資は厳選継続、再成長に向け顧客基盤を拡大



22